

【新聞制作学習・新聞活用学習】全校研究／国語・社会・総合的な学習の時間
新聞を身近に感じられるように（児童）・新聞を授業の教材としていけるように（職員）
指定校 1 年次 飯山市立飯山小学校 白石 裕順

（１）本年度の NIE 活動の概要

本校では、子どもたちにとって新聞が「おもしろいなあ」「役に立つなあ」と今よりも身近なものとして感じられるようになること、また職員にとって見方が広まり、考え方が深まっていくような授業展開のために新聞を活用できるようになることをねらいとして、1 年間取り組んできた。

漢字の多い新聞記事を読むことに難しさのある低学年は、新聞の写真に注目した「新聞に親しむ活動」、社会科が始まり見方が広まっていく中学年は、社会見学や調査活動でわかったこと、考えたことをまとめる「新聞を作る活動」、高学年は授業の中で記事をもとに考えていく「新聞を活用する活動」を決め出し、実践した。

低学年は広げた新聞を見て、興味関心を持った写真を切り抜き、「お気に入りの写真ブック」を作成する中で、いろいろな写真が載っていることに気づき、活動することにおもしろさを感じることができた。中学年は新聞を作る中で、見出しの書き方、写真の載せ方、記事の割り付け方、文章の書き方など、相手に伝えるための新聞制作で大切なポイントについて考えることができた。高学年は、教科書で学んだ社会事象を県内の出来事として書かれた新聞記事を読むことで、社会事象をより身近なものとしてとらえ、自分だったらという視点で考えていくことができた。

（２）本年度の NIE 活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童 274 人、14 学級（うち特別支援学級 3）である。研究はグループを立ち上げて一部の職員で行うのではなく、全職員が NIE について考える場をもてるよう、連学年会で検討していく体制とした。NIE と聞いて、何をどうするのか戸惑う職員もいたため、研究主任が中心になり、休憩室に職員の新聞閲覧コーナーを作って読む中から、どんな活動ができそうか考えていった。また、NIE 職員研修会を開き、校長から、新聞をもとにした授業展開の提案がされ、考え合う場を持った。児童に対しては、児童昇降口に新聞閲覧台を置き、児童がいつでも新聞に触れることができるような環境を作った。

（３）NIE 活動の願い（育てたい力）

①【児童】新聞を身近に感じられるようになってほしい。

低学年・・・「新聞っておもしろいなあ」

- ・家にあっても広げることの少ない新聞を学校の授業の中で、写真に注目して取り上げることで、新聞には自分の目で見たことのないような写真（全国の様子や海外の様子）や、季節に合わせた自然や行事、自分たちと同じ小学生の姿など、多くの写真が載っているということに気づき、そのおもしろさを感じてほしい。

中学年・・・「新聞にまとめるって楽しいなあ」

- ・体験したこと、調査したことをもとに新聞制作をする中で、相手にわかりやすく伝えていくために、大切なことを考えながらまとめられるようになってほしい。

高学年・・・「新聞をもとにすると考えが広まったり深まったりするなあ」

- ・新聞記事を読んで、「やっぱりそうなんだ」と自分の考えに納得したり、「そういう考えもあるのか」「そんなことがあるのか」と新たな考え方の視点を得たりすることで、より広い視野からものごとを見つめられるようになってほしい。

②【職員】新聞を授業の教材としていけるようになってほしい。

最新の情報が取り上げられている新聞を教材として扱うことで、見方が広まり、考え方が深まっていくような授業展開を考えていく一つの手立てにしてほしい。

(4) 全校での取り組み

児童昇降口前に新聞コーナーを設け、新聞を自由に閲覧できるようにしている。その際、児童に読んでほしい、見てほしい記事のページを開き、「注目！」と書いた付箋を貼るようにしている。また、「飯山」に関する記事は切り抜き、ラミネートして新聞コーナー壁面に掲示するようにしている。



(5) 公開授業などの活動内容

①低学年（2学年）

◇单元名 「ぼく・わたしだけのお気に入りしゃしんブック」

◇本時案

ア 主眼

お気に入り写真ブックを発表し合った子どもたちが、さらに自分の好きなことや興味・関心があることの写真を選んで貼り、選んだ理由を書いて、お気に入り写真ブックに新たなページを作成することができる。

イ 指導上の留意点

- ・全体に発表するときは、発表者のページをモニターに映して見られるようにする。

ウ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◇評価	時間
導入	1. 友達の写真ブックの発表を聞く。	・すてきな写真だな。	<ul style="list-style-type: none"> ・何名かに写真ブックの発表をしてもらい、写真ブックの作り方を確認すると共に意欲を高める。 ・手順表に沿って作り方の手順を確認する。 	10
	2. 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな写真があるかな。 ・作るのが楽しみだな。 		3
お気に入り写真ブックに新しいページを作ろう。				
展開	3. 新しいページを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの写真にしようかな。 ・この写真がいいな。 ・なかなかいい写真がないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持ってきた新聞にお気に入りの写真がない場合は、他の新聞を渡せるように用意しておく。 ・選んだ理由を書けずにいる子どもには、対話しながら理由を言語化できるようにする。 ・完成したページを何名か発表する。 ・発表者のページをモニターで映し、全体で見られるようにする。 	20
	4. 完成したページを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・Bさんが選んだ写真はすてきだね。 ・Cさんはそういう理由でこの写真を選んだんだね。 		7

終 末	5. 本時の活動をふりかえる。次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいページができてよかった。 ・作るのが楽しかった。 ・友だちが選んだ写真におもしろいのがあったなあ。 ・もっとページを増やしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何名かふりかえりを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分の好きなことや興味・関心のあることの写真を選んで貼り、選んだ理由を書いて、お気に入り写真ブックに新たなページを作成することができた。 </div>	5
--------	------------------------------	---	---	---

②中学年（4学年）

◇ 単元名「長野県の伝統工芸」

◇ 本時案

ア 主眼

一人ひとりが自分の調べた伝統工芸品について新聞にまとめ、クラスのみんに紹介しようとしている子どもたちが、読者がより読みたい・より読みやすい新聞にするにはどうしたらいいか考える場面で、新聞の見出し、写真、文章の構成に着目し、お互いの新聞を見てアドバイスをしあうことを通して、相手意識をもって推敲することができる。

イ 指導上の留意点

- ・アドバイスの難しい児童には、ポイントを見返しもっと良くなりそうなところはないか一緒に探す。

ウ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◇評価	時間
導 入	1. 学習の準備をする。 2. 2つの新聞を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・やっと新聞できたよ。 ・クラスのみんはどんな新聞になったんだろう。 ・これで完成でいいのかな。 ・①のほうがいい！ ・①の新聞の方が分かりやすいよね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮完成した新聞を配布する。 ○タブレット PC の準備を手早くすることができるように、時間を決め、声掛けをする。 ○二つの新聞をロイロノートで提示し、どちらの方が読みたいと思えるか問う。 	10
読者が読みたい、読みやすい新聞にするには、どうすればよいだろうか				
導 入	3. 本時の自分の課題とポイントを確認する。 4. 友だちの新聞を見てポイントにそってアドバイスをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・見出しが分かりやすい。 ・写真と見出しが合っている。 ・文章に間違いがない。 ・自分の新聞は大丈夫かな。 ・ちょっと見出しが長いなあ。 ・写真はもっとアップの方がいいかも。 ・漢字が使えてないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読みたいと思ったポイントはどこか問う。 ○子どもたちから出たポイントを黒板へ板書していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出し→短くわかりやすく興味を引くか ・写真→大きさ・内容にあっているか ・文章→誤字、脱字がないだろうか </div>	
展 開	5. 友だちのアドバイスをもとに新聞の修正する。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を大きくするためにもとの写真を切り取って大きくしよう。 ・見出しを短くするためにいらぬ言葉は削ろう。 ・文章の打ち間違いが結構あったから直して、もう一度読んでみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友のアドバイスをもとに、新聞の修正を促す。 ○上手いかない子には、どんな所に困っているのか問いサポートする。 ○修正箇所が少ない児童には、自分で読んでみて、修正したい箇所がないか問う。 	30

終末	6. 次回の課題や活動の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前よりもいい新聞になった気がするぞ。 ・友だちにアドバイスをもらってより読みやすい新聞になったから、次回はクラスのみんなに見てもらいたいな。 	<p>○新聞がよりよいものになったことを確認したり、次時の課題をもったりすることができるように、振り返りの時間を設ける。</p> <p>◇友のアドバイスをもとに自分の新聞を作り直しているか。</p>	5
----	---------------------	--	---	---

③高学年（6学年）

◇ 単元名 「住みやすく、みりよくあるまちづくり」

◇ 本時案

ア 主眼

社会科で、飯山市こども館きららが市民の様々な願いをもとに建設・運営されていることを学習した子どもたちが、信濃毎日新聞の地域面から他の市町村では、子育て支援や子どものための公共事業や地域の人による取り組みがどのようにされているか調べる場面で、飯山市でもできる・したい取り組みについて考えることを通して、住みやすく魅力ある飯山市をつくる希望や願いをもつことができる。

イ 社会科とのつながり

市民、市役所、市議会などが関わり合って、市民の願いをもとに飯山市の政治が行われていることを学習した。その発展学習として、市が「市民の願いをもとに、飯山市を良いまちにしたい」と願いをもって公共事業を運営していると同時に、市民や民間企業も同じように、魅力あるまちづくりに向けて様々な取り組みをしていることを学習する。特に授業で取り扱った子育て支援や子どものための活動に着目しながら、住みやすく、魅力ある飯山市へ希望や願いをもつことにつなげていきたい。

ウ 指導上の留意点

- ・新聞紙面全体から、必要な記事や情報を得ることに慣れていない児童が多いため、あらかじめ教師が提示する記事を選ぶようにする。

エ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援 ◇評価	時間
導入	1. 社会科の学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市民の様々な願いをもとに、飯山市の政治が行われていたな。 ・住みやすい飯山市をつくるために、市役所や市議会が大切な役割をしていたな。 		10
	長野県内では、住みやすくみりよくあるまちづくりのために、どのような取り組みがあるのだろう。子育て支援や子どものための取り組みに注目して考えよう。			
	2. 他の市町村ではどのような公共事業が行われているか知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村でも、住みやすいまちづくりのための取り組みがされているんだな。 ・この取り組みも、市民の願いがきっかけになっていたのかな。 ・これも子育てを応援する取り組みかな。 ・子どもたちが楽しんで学ぶための取り組みかな。 ・飯山市でもやらないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例として記事の一つを紹介し、全体で記事の読み方を確認する。 ・信毎地域面の切り抜きを複数用意する。 ・どのような願いから行われた取り組みか、考えさせる。 	

展 開	<p>信毎地域面の記事を読んで、市町村の魅力あるまちづくりや、住みやすいまちづくりのための取り組みを分類しよう。</p> <p>3. 新聞記事を読んで、住みやすいまち、魅力あるまちにするための取り組みを探る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇市では、子どもが映画を作ったのか。子どもが楽しめる取り組みだし、〇〇市が「映画のまち」として有名になるかもしれないな。 ・〇〇市では、子どもが公園に置きたい遊具を提案したのか。子どもの意見が生かされるのはとてもいいな。 ・〇〇町では、園児向けのサッカー教室をやったのか。小さいうちからスポーツに親しむと、有名な選手に成長するかもしれないな。 ・〇〇市では、環境にやさしい工作教室をやったのか。楽しく環境保護の学習ができていいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業に限らず、民間の取り組みの記事も紹介する。 ・記事の読み取りが十分にできるように、あまり多くの記事を配布しない。 ・新聞記事から気づいたり考えたことを、ロイロノートのカードに書く。 	20
	<p>4. 飯山市でもできる、やってほしい取り組みについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市はスキーで有名だから、スキー大会やスキーを楽しむイベントで、もっと飯山を有名にしたい。 ・飯山の〇〇公園は、遊具が少ないから、僕たちが提案できるといいな。もっと子どもたちが集まる公園になるんじゃないかな。 ・市役所、お店、一般の人たちが協力すれば、もっといろいろなことができるかもしれない。 ・私たちの願いが実現するように大人になったら選挙や市の政治にきちんと参加したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市で取り組んでほしいことと期待できる効果をロイロノートのカードにまとめ、共有ノートで、整理、共有する。 <p>◇新聞記事を参考に考えた、住みやすく魅力ある飯山市をつくる希望や願いについて表現している。</p>	15

(6) 児童の反応

①低学年(2学年)

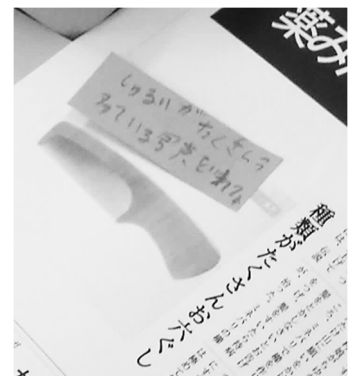
- ・机の上に新聞を広げ、興味深そうにめくっていく子どもたちの姿が見られた。A児は自分の手にした新聞をじっと見つめて、お気に入りの写真が見つかったら、はさみを使って切り抜き、ノートに貼り付けていった。そして、写真の見出しや選んだ理由を書いた。それが終わると、友だちの様子を見回した上で、また新聞に目を向けていった。



終末では、自分の選んだ写真について、友だちと笑顔で話す姿が見られた。飽きることなく新聞の紙面を見つめる様子からは、興味関心をもって活動していたことがうかがわれた。友だちとの情報交換する場があることで、自分だけでは気づかなかった写真に出会うことができ、それもおもしろさにつながっているようだった。

②中学年(4学年)

- ・導入の段階で担任が提示した二つの新聞を比較する中で、相手に伝わる紙面にするために、どんなことが大切になるのかを考えたことで推敲のためのポイントを「見出し、写真、文章」の3つに絞りこんでいくことができた。
- ・B児はC児の「種類がたくさんお六ぐし」という見出しと、櫛が一つだけ写っている写真を見て、「種類がたくさん写っている写真を



いれな」と付箋にアドバイスを書いていった。そのアドバイスをもとにB児はタブレットでお六ぐしの写真を調べ始める姿があった。そして、櫛がたくさん写っている写真を見つけ出した。また仏壇に飾られた竜の飾りについて「金の竜の夢の意味がある」と見出しをつけたC児はB児からの「写真をもっと大きく」のアドバイスをもとに、竜の写真をより大きな物にするために、タブレットで調べていった。二人ともお互いのアドバイスをもとにしながら、相手に伝わる新聞に作り直すことができた。



③高学年（6学年）

- ・社会で学んだ市民の願いをもとにして政治が行われていることを学んだ子どもたちが、長野県内の市町村で実際に市民の願いが政治の場に届き、願いが実現されている事実を新聞の記事を示しながら取り上げたことは、知識として学んだことに対して「やっぱりそうなんだ」と納得することにつながっていった。

- ・県内の市町村の取り組みについて記事を読んだ後には、自分たちの住む飯山市でやってほしいことをタブレットで共同編集する場面で、提示された記事を見返す姿があった。空き家を子どもの居場所につなげた箕輪町の取り組みを読んだD児は「駅前子どもスペースをしたらいいかもしれない」と書き込んだり、地域の伝統工芸水引を使った飯田市の取り組みを読んだE児は「飯山市は内山紙で何かできそうだ」と話したりする姿があった。どちらも、記事を元にして考えようとしていた。



（7）成果と課題

①【児童】

新聞を授業の中で教材として使うことで、新聞のおもしろさを感じる姿、伝えるための方法を学ぶ姿、自分の考えを広めていこうとする姿が見られ、新聞活用のよさをそれぞれの学年で感じることに繋がった。

②【職員】

自分の学年学級では、こうすることで新聞を活用した学習ができそうだと、授業を展開するための見通しを持つことができた。今年度、見えてきた低学年「新聞に親しむ活動」、中学年「新聞を作る活動」、高学年「新聞を活用する活動」を、無理のないように他学年へも広げながらNIEの可能性を探っていきたい。